



ASAHI University News Letter

vol.147

September 2023

発行日/隔月1日

編集・発行/朝日大学 総務部



朝日大学HP

2024年度歯学部1年次の授業料を50%減額

2024年度の歯学部入学生から、世帯収入や成績等の条件を問わず、1年次の授業料を50%減額することを決定しました。

私立歯科大学・歯学部の17大学の中で、1年次学費と6年間の学費総額を最も低額に抑え、学びをサポートすることで、優秀な歯科医師を社会へ輩出します。



「オープンキャンパス2023」には多くの高校生やその保護者にご参加いただき、本学の雰囲気を実際に肌で感じていただける機会となりました。

「歯科医師になる」夢の実現へ。

最も学びやすい学費※で入学をサポートします。

2022年6月に閣議決定された骨太の方針（経済財政運営と改革の基本方針2022）においては、「全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の集積と国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）の具体的な検討、オーラルフレイル対策・疾病の重症化予防につながる歯科専門職による口腔健康管理の充実」が明記されたことで、歯科医療の重要性が再認識されつつあり、今後、歯科医師が必要とされるフィールドが急速に広がるとともに需要が高まります。

その一方、ウクライナ危機やエネルギー・食糧の安全保障問題、急速に進む円安や物価高など、我が国を取り巻く社会・経済環境は急速に悪化しております。

今こそ朝日大学は「国際未来社会に貢献し得る人材の育成」という建学の精神に立脚し、2024年度から歯学部入学生を対象に1年次の授業料を50%減額することで、口腔保健医療を支える有為な人材を広く求めます。

歯学部1年次授業料 **50%減額**

年間授業料 1,900,000円 ➔ **950,000円**

◆ 対象者 2024年度4月歯学部入学生（欠員補充入試の合格者は除く。）世帯収入や成績等の条件はありません。

◆ 1年次学費

費目		2023年度以前	2024年度～
学 費	入学金	400,000円	400,000円
	授業料	1,900,000円	950,000円
	施設維持費	400,000円	400,000円
	教育充実費	780,000円	780,000円
合計		3,480,000円	2,530,000円

◆ 6年間学費

私立歯科大学・歯学部17大学の中で
1年次学費と6年間の学費を最も低額※に抑えます。

17,930,000円

上記に加え諸会費や実習等に係る諸費用が必要となります。詳細は「入学ガイド」「学生募集要項」でご確認ください。 ※日本私立歯科大学協会資料に基づく。

強さと人気の両面で輝く!

各社の調査に基づく大学のランキング結果が公表され、本学がランクインしました。今後も魅力ある大学づくりを推進していきます。

◆ 本当に強い大学ランキング2023

週刊「東洋経済」（2023年5月22日臨時増刊号）

本当に強い大学TOP300 **第55位**

警察官・消防官・自衛官に強い
大学ランキング—警察官部門 **第8位**

（調査対象大学全国563大学中）

全国の国公立大学を対象に、①教育・研究力、②就職力、③財務力、④国際力の4つの指標で算出し、毎年、本誌に上位300校のランキングが掲載されます。

定員に対する適正な学生数、トップアスリートの育成、海外の大学との学生・教職員の継続的な相互交流などが高く評価されました。

◆ 「都道府県別 大学人気ランキング」

「学校経営アカデミー」（第52号 2023年5月号）

岐阜県—私立大学部門 **第1位**

（回答者数8,778名332票獲得）

一般社団法人 学校経営アカデミーが発行する媒体において、全国の高校生1～3年生約22万人を対象に、高校卒業後の希望進路や希望する進学地域、興味のある学問・仕事の分野、進路指導を受ける際に欲しい情報などのアンケート調査を実施、その一環として、大学人気ランキング調査を行ったものです。

（全国で219,732名が回答）

2023年度 朝日大学産学連携スポーツ振興事業

第七十三代 横綱「照ノ富士」関 講演会

2023年度の産学連携スポーツ振興事業として、7月4日に、第七十三代横綱「照ノ富士」関講演会を実施しました。

講演会は本学体育会相撲部の稽古建学の後に実施され、第七十三代横綱照ノ富士関、宮田淳理事長、平松亜希子アウンサーの3名による対談形式で行いました。照ノ富士関のこれまでの経験や未来への展望について語り合いました。

講演会の最後には、過去に照ノ富士関が本学相撲部にお米等の差し入れをされたことに対して、宮田理事長から照ノ富士関に感謝状が授与されました。

苦悩と努力の日々

照ノ富士関は「怪我と病気で苦しんだ時期がありました」と振り返りました。番付は怪我と病気により下がり、引退すべきか、それとも闘い続けるべきかで葛藤しました。しかし、挫折の中で見つけた答えは「やるしかない」でした。その決断を胸に新たなトレーニングを開始し、「一年半で二十日程度しか休んでいなかった。それぐらい追い込んでいました」と語りました。



支えある生活

辛い状況を乗り越える中で、照ノ富士関はいつも妻であるツェグメド・ドルジハンドさんの支えがあったことを語りました。「一年半ずっと同じことを続けるのは大変。だけど、毎日一緒にジムに行ってくれました」「今日はもういいや」と思った日でも、『一緒に行こう』と言ってくれたから、自分もやるしかないと思えた」と妻の存在の大きさと感謝の気持ちを述べました。

横綱相撲の哲学

横綱としての相撲スタイルや考え方について、照ノ富士関と宮田理事長の対話が繰り広げられました。照ノ富士関は謙虚さを忘れず、自身の型を持ち続けることの重要性を語りました。また、大相撲への思いや日本の伝統についても熱く語り、競技人口の減少に危機感を持って訴えました。

七十三代 横綱 照ノ富士 春雄

てるのふじ はるお/1991年生まれ。モンゴル国ウランバートル市出身。2009年に鳥取城北高校に入学し、翌年、間垣部屋に入門。2011年5月に初土俵を踏んだ後、伊勢ヶ濱部屋に移籍した。2015年、初土俵からわずか25場所で幕内最高優勝を果たす。2021年に令和初の横綱に昇進。

学生へエール

学生たちへのメッセージが送られました。照ノ富士関は一日一日を大切に、将来の目標を持ち、自己の成長に取り組むようにと学生たちを激励しました。照ノ富士関の言葉には力強さと人間味が込められており、学生たちの心に響きました。

参加者との交流



「手のひらの大きさを比較したい」という一風変わったリクエストが学生から出されました。それに対し、照ノ富士関は笑顔を見せ、手のひらを差し出しました。学生と横綱が手のひらを合わせる光景は、参加者全員に笑顔を与え、会場全体が温かい雰囲気になりました。



有識者懇談会を開催

教育改革と研究推進へ向け

7月12日に、教育活動及び研究活動等のさらなる充実・推進に活かすことを目的に、第8回有識者懇談会を開催しました。有識者としては、森和之瑞穂市長をはじめ、地域の民間企業や公益法人等の代表者4名の方に出席いただきました。本学からは、大友克之学長をはじめ、副学長等が出席しました。

大友学長からは、朝日大学の教育研究について、外部評価、主要な指標、地域社会との連携などの詳細報告が行われた後に、2022年度の事業報告と決算、そして本大学の現状と今後の運営方針についての報告がありました。

懇談会でいただいた貴重な意見は、今後の教育課程の編成や研究活動へ反映し、教育と研究の質向上を目指してまいります。



有識者懇談会の様子

濃飛倉庫運輸株式会社と 産学連携活動協定を締結

地域社会発展と人材育成に焦点

6月15日に、本学と濃飛倉庫運輸株式会社が、地域発展と人材育成に一層貢献するため、新たな産学連携協定を締結しました。

2013年に締結した「朝日大学と濃飛倉庫運輸株式会社との産学連携に関する合意覚書」の発展を目指す新協定は、過去10年間での教育成果や企業を取り巻く社会情勢の変化を背景に、「寄附講座」「インターンシップ」「共同研究」など、新たな取組みを盛り込んでいます。

本大学と濃飛倉庫運輸株式会社は、知識と技術の交流を深め、地域社会への更なる貢献とともに、学生たちへの実践的な機会の提供を目指しています。

学・濃飛倉庫運輸株式会社
産学連携活動協定調印式



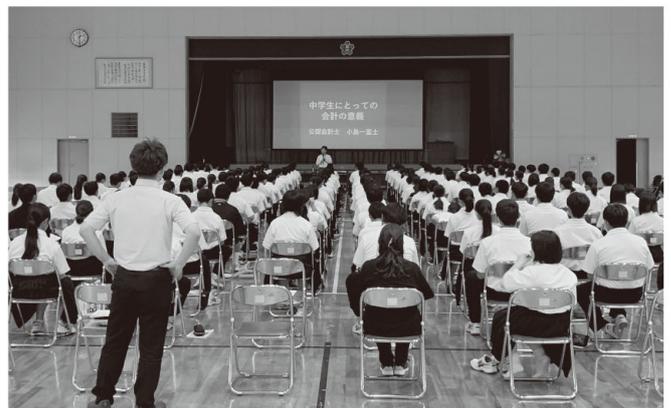
協定締結の様子
大友克之学長(左)と尾関圭司社長(右)

会計教育で地域貢献

会計と企業活動の深い理解を促す

6月1日に、瑞穂市と2013年に締結した包括連携協定を基に、未来の担い手となる人材の育成と、文化および教育活動を通じた地域貢献に寄与することを目的として、瑞穂市立巢南中学校の生徒を対象に会計セミナーを開催しました。

公認会計士である本学会計研究部小島一富士監督が講師を務め、「中学生にとっての会計の意義」というテーマで、解説を行いました。企業活動の理解を深めるための会計の重要性、そして起業や投資における会計の役割について、生徒たちは深い理解を得ることができたようです。



会計セミナーで学ぶ

教育懇談会、対面形式で開催

6月24日に、6号館講義室にて、保護者との連携を密にすることを目的とした教育懇談会を、2年ぶりに対面形式で実施しました。

本懇談会には、法学部、経営学部、保健医療学部健康スポーツ科学科の学生の保護者が多数参加されました。

全体会では、大友学長の挨拶の後、都尾学生部長から学生生活に関する説明があり、さらに、佐合就職支援課長からは就職活動に関する説明が行われました。コロナ禍以降の入学生が大半を占めていたため、本会に参加いただいた保護者の皆様からは、「初めて大学に来ることができ、実りある良い機会となった」との感想をいただきました。



開催した教育懇談会の様子



国際協力という視点

国際協力の新たな在り方

6月14日に、「建学の精神と社会生活・リベラルアーツ」の第9回講義を開講しました。今回のテーマは「国際未来社会を切り開く：国際協力について」で、講師として独立行政法人国際協力機構（JICA）中部国際センターの小森正勝所長を招きました。

小森所長は、「JICAの国内事業」を主題に、SDGsと国際協力、JICA中部の活動紹介、そしてコロナ禍における国際協力の在り方について解説しました。また、日本国内における具体的な国際貢献事例も引き合いに出し、広い視野を持つこと、世界とつながる意義、そして外国人材の育成支援や多文化共生の取り組みを通じて国際未来社会を開く活動に参加できることを強調しました。



国際協力の意義について解説する小森正勝所長

海を越えて社会貢献へ

JICA海外協力隊としてジンバブエへ

小森所長の講義の後、本大学経営学部卒業生で、JICA海外協力隊としてジンバブエへ派遣される山村直緒さんの壮行会を開催しました。小森所長、経営学部の1、2年生はじめ、学生や教員200名が集まり、山村さんの前途を祝い、エールを送りました。

山村さんからは「JICA海外派遣に向けて」のテーマでショートスピーチが行われました。スピーチでは、JICA海外協力隊への応募のきっかけや現地での活動内容が紹介され、大学での商品開発や海外短期留学（タイ）での経験等を通じて自身の可能性が高められたことを話されました。さらに、「大学での経験が一生の強みとなる」とのメッセージが後輩たちに送られました。

最後に、在学生代表として鈴木若菜（経営学部3年生）さんが山村さんに敬意を表して、感謝と応援の言葉を贈った後に、花束が手渡されました。



山村直緒さんが自身の経験と成長を語る



国際未来社会と ウクライナ紛争の深層

元大使の視点から見たウクライナ紛争

6月21日に、「建学の精神と社会生活・リベラルアーツ」の第10回講義を開講しました。今回のテーマは「国際未来社会を切り開く：ウクライナ紛争は何故起こったのか」で、講師として元駐ウクライナ特命全権大使の角茂樹氏を招きました。

角氏は、「平和について考える：ロシアによるウクライナ侵攻と日本への影響」を主題に、ロシアとウクライナの関係、そして最近のウクライナ侵攻が世界に与えた影響について学生たちにわかりやすく解説しました。

世界平和秩序がどのように乱れ、そして「平和」をどう維持するのかについて、学生たちが深く考える機会となりました。



ウクライナ紛争の背景を解説する角茂樹氏

〈ウクライナ支援プロジェクト〉 新たな学生を受け入れ

建学の精神に基づく活動

ウクライナ支援プロジェクトの一環として、ウクライナからの留学生ズロビン・ウラジスラフさんが無事、日本に到着しました。早速、本大学院経営学研究科の研究生として学びを始めています。

ウラジスラフさんは、大友克之学長を表敬訪問し、ウクライナの現状と日本でのこれからの生活について意見交換を行いました。また、ウラジスラフさんからは、本大学硬式野球部員に向けた講話も実施。ウクライナでの経験と生活環境について説明し、部員達には非常に貴重な時間となりました。

本大学は、建学の精神にのっとり、ウクライナの学生たちに対する支援を積極的に行っています。



ズロビン・ウラジスラフさん(左)と大友克之学長(右)

岐阜県弁護士会 ジュニア・ロースクールを開催

実践型法教育プログラム

8月3日に、6号館6201講義室にて、第14回岐阜県弁護士会ジュニア・ロースクールを開催しました。このイベントは、本大学、岐阜県弁護士会、岐阜法教育研究会が共同で主催し、中学生を対象に裁判体験学習を通じた法教育を行うものです。

イベントでは、裁判の授業が行われ、模擬法廷で模擬裁判を体験しました。さらに、少人数のグループで評議を行い、判決を検討するという演習が行われました。各グループの評議結果を発表した後、弁護士からの講評を受け、受講証書授与がありました。

参加者たちは、法廷の雰囲気を実感しながら、法の意義や司法制度の重要性を深く理解する機会となりました。



模擬裁判の様子

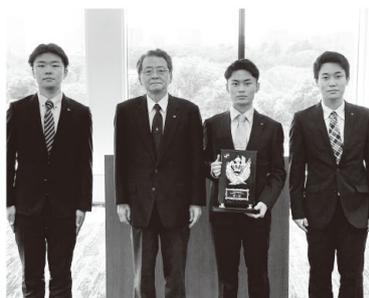
日商簿記-1グランプリ2022で 見事二冠達成

団体、個人両部門で見事な成績を収めた会計研究部

6月30日に、日本商工会議所（東京都千代田区）にて開催された日商簿記全国大会 日商簿記-1グランプリ2022の表彰式が開催され、本大学の体育会会計研究部が個人と団体の部門で最優秀に選出され、栄えある二冠を達成しました。

団体部門では、本大学体育会会計研究部チーム「朝日A：池田颯、大石実穂、笹平知寛、田中颯馬」（全員経営学部2年生）が「最優秀団体」に輝きました。

また、個人部門では池田颯さんが「最優秀個人」に選ばれ、ダブル受賞の快挙を成し遂げました。池田さんは、前回の日商簿記検定1級の試験で不合格となった経験をバネに苦手分野を克服し、今回は最高得点を獲得しました。



日本商工会議所的小林健会頭（左から二番目）から最優秀賞表彰を受ける池田颯さん（左端）、笹平知寛さん（左から三番目）、田中颯馬さん（右端）

朝日大学 スポーツフェスティバルを開催

大学と地域が繋がる

7月8日に、朝日大学体育会と公益社団法人ぎふ瑞穂スポーツガーデンが主催する第14回朝日大学スポーツフェスティバルを開催しました。

本イベントは、地域の人々に様々なスポーツと触れ合う機会を提供し、その魅力を伝えることで、大学と地域との新たな絆を生み出すことを目的としています。

体育会等のブースでは、レクリエーションや体験活動を通じて競技の魅力が伝えられました。また、FC岐阜により設けられたサッカーブースや、ヒマラヤ株式会社による子供体力測定ブースなど、訪れた人々を楽しませました。

今回のフェスティバルには、小学生、中学生、高校生、そしてその家族など地域の方々約400名が参加し、充実した一日を過ごされました。



スポーツフェスティバルの様子

第1回NFC国際交流大会が開催

7月15日と16日の二日間、朝日大学フェンシング場とサンライズジムで第1回NFC国際交流大会が盛大に開催されました。

この大会は、名古屋フェンシングクラブ（NAGOYA FENCING CLUB）が主催し、環球銀行アメリカ株式会社とルーポン株式会社の後援を受け開催されました。

男女別に、フルーレ、エペ、サーブルの個人戦が行われ、中学生から大学生までの120名が激戦を繰り広げました。

海外からも、上海の大学生とそのコーチ陣11名、台湾の高校生とそのコーチ陣15名が参加し、真剣勝負を展開しました。

国境を越えたこの切磋琢磨の場は、参加者たちにとって、貴重な経験となりました。



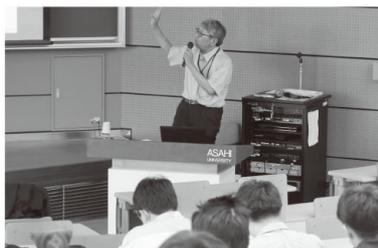
世界を結ぶフェンシング、大会参加者の集合写真

教員採用試験直前 対策講演会を開催

「ここが出る」に集中力倍増!

6月29日に、5号館512講義室にて、教員採用試験直前対策講演会を開催しました。講師を務めたのは時事通信出版局教育事業部次長の中川春雄氏で、4年生18名、3年生14名、2年生3名、教員6名が参加しました。

「直前対策のポイント」と題したこの講演会では、中川氏から教職教養試験の出題傾向や出題予想について詳細に解説され、学生たちは真剣に耳を傾け、メモを取っていました。講演会終了後には、壮行会が行われ、「チーム朝日」として、後輩達から受験に臨む先輩達へのエールとともに合格祈願が行われました。



熱心に耳を傾ける学生たち

朝日大学オンデマンド 公開講座「医療と健康」

公開講座「医療と健康」は、歯科医学・歯科衛生学の分野での高度な教育研究と人材育成を行う本学と、中濃地域の医療を先進技術で牽引する専門性とノウハウを有する中部国際医療センター（旧称：木沢記念病院）が、地域の皆様の健康増進と生涯学習の促進を目的として、2009年度から開催しています。

2023年度に中部国際医療センターにおいて日本初となる陽子線治療装置「プロビーム」を導入した陽子線がん治療センターの開設を記念し、先端医療に関する話題をオンデマンド講座として映像にてご覧いただけます。

公開期間 2023年7月24日から2024年3月31日まで

がん治療の進歩～特に陽子線治療について～

講師 中部国際医療センター
陽子線がん治療センター施設長・
放射線治療科統括部長
不破 信和 医師



本当は怖い! 根面う蝕の予防と治療 ～生活習慣病の傾向と対策～

講師 朝日大学歯学部・大学院歯学研究科
二階堂 徹 教授



朝日大学イブニングセミナー開催

臨床力向上と最新情報提供

5月11日に、5号館513講義室にて、2023年度第1回となる朝日大学イブニングセミナーを開催しました。このセミナーは、臨床系の教員、研修歯科医、修練医、そして歯科衛生士を対象に、最新の臨床情報の提供と臨床力の向上を目的としています。

今回の講師として、株式会社プラスアルファの黒川綾代表取締役をお招きし、予防歯科の観点から自身の研究に基づくプロローピングについての講演が行われました。

さらに、今回のセミナーは歯科衛生士のキャリア教育も視野に入れて開催され、歯科医師、歯科衛生士だけでなく、歯科衛生士専門学校の教員や学生も参加しました。受講者は総勢70名にのびりました。



黒川綾代表取締役が予防歯科について講演する様子

循環器内科のご紹介

豊富な経験と専門知識で健康を守る

朝日大学病院（岐阜市橋本町）循環器内科では、心臓病（心不全・心筋梗塞・狭心症・高血圧など）を中心とした診療を行っております。

患者さん一人ひとりに配慮した診療の提供

当科では、狭心症や心筋梗塞に対する冠動脈ステント留置を含む心臓カテーテル検査・治療を積極的に行っております。また、徐脈（脈が遅くなりすぎる状態）などに対するペースメーカー治療も行っております。さらに、心エコー図検査、冠動脈CT、心臓MRI、心臓核医学検査といった身体的負担の少ない高度な精密検査を、患者さんのニーズにあわせて提供しております。

看護師や理学療法士などのコメディカルスタッフの協力により、きめ細やかな循環器内科診療を実践しており、予防医学から、急性期医療、社会復帰や在宅医療に至るまで、一貫した医療サービスを提供しております。



心臓カテーテル検査室での様子

NEWS

沖縄県人会を盛大に開催

再び繋がる沖縄の心、沖縄県人会

7月3日に、6号館食堂にて、4年ぶりに朝日大学主催の沖縄県人会を開催しました。沖縄県出身の学生、サポーター学生、教職員ら144名が集いました。

本会は、沖縄県出身の比嘉奨歯学部助教による心温まる歓迎の挨拶から始まりました。途中、石垣島から駆けつけた眞榮田義功客員教授とPDI岐阜歯科診療所副所長大森俊和歯学部講師による三線の生演奏が行われ、会場は一瞬にして沖縄の雰囲気^{さんしん}に包まれました。

また、沖縄県ではお馴染みのタレント、護得久榮昇先生^{ごえくえいしょう}がスペシャルゲストとして登場しました。先生はパフォーマンスを披露し、学生たちと写真撮影も行いました。会場を更に盛り上げ、興奮と感動が広がりました。



左/みんなで記念撮影 右/会場を盛り上げる護得久榮昇先生

ワールドカフェを開催

学生と社会人が共に学び合う

6月29日に、6号館食堂にて、瑞穂市との共催による「学生×社会人のワールドカフェ」を開催し、学生と地域の社会人を合わせた約60名が参加しました。3年ぶりの開催となった今回のワールドカフェでは、「女性の政治参画」をテーマに様々な意見交換が行われました。

野田聖子衆議院議員と森和之瑞穂市長も特別ゲストとして参加。野田議員からは、「男女共同参画～女性の政治参画」についての熱意あふれる基調講演が行われました。その後、参加者はグループに分かれ、「女性ゼロ議会の現状をどう考えますか?」といった問題について話し合いました。この議論には、森市長と野田議員も各グループに参加し、意見交換を深めました。

参加した学生からは、「世代を越えた社会人との会話の機会が持てて良かった」との声が聞かれ、大いに盛り上がったイベントとなりました。



学生と意見交換する野田聖子議員

「闇バイト」への応募を防ぐ

安全意識を学生に啓発

5月23日に、5号館講義室にて、岐阜県警察が法学部の2年生を対象に、SNSを通じて募集される違法行為を伴うアルバイト、通称「闇バイト」の危険性についての講義を行いました。

講義では、講師の岐阜県警察本部少年課の杉原理恵少年育成支援官が学生たちに、魅力的に聞こえる「高額」「即金現金」などの言葉に惑わされず、自身の個人情報を見知らぬ人に渡さないことの重要性を訴えました。

参加した学生は、「個人情報を軽率に送らないようにしようと思いました」と話し、学生たちがインターネットの使用に際しての安全意識を向上させるための大切な一歩となりました。



「闇バイト」の危険性について語る杉原理恵少年育成支援官

防犯功労団体として表彰

防犯への貢献で表彰

5月26日に、本学は長年にわたる防犯への貢献を讃えられ、瑞穂・本巣・北方地区防犯協会の総会において功労団体として表彰されました。総会は本巣すこやかセンターで開催され、本大学からは学生部長の都尾元宣歯学部教授が出席しました。

学生たちが地域のイベントに参加し防犯啓発活動を推進し、防犯情報を広めるなど、長年にわたり安全な街づくりのために尽力してきたことが評価され、今回の受賞につながりました。



都尾元宣歯学部教授(左)が藤原勉本巣市長(右)から表彰状を受取る

新刊紹介

好評発売中!!

学長! 出番です。

学長とときどき医師の徒然草

著者:朝日大学 学長 大友 克之
四六判 304ページ 発行:PHP研究所
税込価格:1,600円(税別)
ISBNコード:978-4-569-85521-9

現役医師であり、大学学長である高等教育界の若きリーダーが、医師と教育者、両方の視点から、日々感じていることを縦横無尽に綴る。



医師として、教育者として、日々感じていることを、徒然なるままに著した、知性きらめく一冊。勇気と元気がわいてくる。

株式会社 朝日新聞出版
代表取締役社長 高井 昌史